

広い視野を持った生徒の育成とNIE

長野県岡谷市立岡谷西部中学校 恩田朋彦

1. 実践の概要

本校は、NIE実践校の指定2年目を迎えたが、昨年度の実践と残された課題は次のようなものであった。

NIEの目指す『情報活用能力の育成』と、本校の研究テーマである『広い視野を持った生徒の育成』とは基本的な考え方は同じであり、もっと端的に言うなら共に目指すものは『生きる力』の育成である。今までテレビ欄やスポーツ欄しか見なかった生徒が、NIEの実践を続ける中で、時々ではあっても一面の記事に目を向けるようになったり、身近な地域にどんなニュースがあるのか、どんな投書があるのか、世界はどのように動いているのか、それぞれの紙面を見るようになった。これらの行動は、その生徒にとってみれば、まさに『生きる力』なのである。この力は、すぐには形になって何かの成果として現れるものではないかもしれないが、将来社会の中に出て行く一人一人の生徒にとっては、今から育てていかななくてはならない力であると確信している。

また、生徒に感想を聞いてみても、新たな発見による喜びを経験する生徒もあり、NIEの学習は全般的に好評であった。ただ新聞を読ませれば良いというものではないので、事前事後の指導、そして何よりも教師自身が新聞を読まなければならないが、そこには生徒と同様な新たな発見も多々あるのである。

本年度の活動は、基本的には昨年度の活動を継承したものであるが、本校としては初めて選択教科に社会科を含めることになったの

で、『広い視野を持った生徒の育成』という大きな研究テーマのもとで、特に選択社会科における新聞の活用を中心に研究を進めてみた。

2. 新聞の置き場所と整理の方法

図書館に新聞コーナーを設置し、生徒会図書委員の生徒が3紙を管理した。その他の新聞は職員室の所定の場所に置き、職員が必要に応じて新聞の記事を授業に活用できるようにした。

3. 実践の内容

本年度実践した下記の(1)～(6)については、昨年度までの活動の継続ということで、昨年度の『実践報告書』とも内容が重複するので、具体的な活動内容については割愛し、本年度特に力を入れた(7)について実践報告をしたい。

- (1) NIEレポートの作成
- (2) 世界地理導入における新聞の活用
- (3) 古い新聞を使つての歴史の授業
- (4) タイムリーな記事の活用(地理・歴史・公民)
- (5) 進路学習用の資料としての新聞の活用
- (6) 昇降口への新聞の掲示
- (7) 選択社会科における新聞の活用

NIEについて考える以前の問題として、社会科という教科の立場から、どのようにすれば『広い視野を持った生徒』を育成できるのかと考えた時、まず頭に浮かんだのは次の点である。

社会科の授業というと、生徒の意識は「覚

えることが多くて面倒だ」「先生が話したり黒板に書いたことをノートに写すだけでおもしろくない」となりがちである。事実、研究授業などでは「生徒の活躍する場面作り…」とか「問題解決学習を…」と言いながら、社会科…少なくとも中学校の社会科ということで考えると、例えば歴史分野については300頁に及ぶ教科書を一通り扱わなくてはならない。生徒自身の活動を十分に保障しつつ、知識面でも落ちなく力をつけさせるということは、社会科の学習に与えられた限られた時間の中では至難の業である。勿論、建て前としては学習する内容に軽重をつけて扱えば十分可能…という考えもあろう。しかし、学習を深めるための基礎的な力がない生徒に、その『軽重をつけた学習』が可能であるだろうか。そう考えると、否応なく先述の生徒の意識…、つまり社会科嫌いの意識を更に強めるような学習形態になりかねない。このような状況にあっては、社会科の授業を通して『広い視野を持った生徒』の育成を図ることなどは考えも及ばないことである。

そのような中で、本年度初めて選択教科に社会科を含めた。この時、生徒に行った調査の結果は、まさに社会科という教科の好き嫌いと『広い視野』との関係を象徴するものであったので紹介しておきたい。教科の選択にあたっては生徒の希望を第一に考えて行い、選択社会科には18人の生徒が集まった。希望優先という決め方である以上は、18人すべてが社会科好きであろうと調査したところ、大好き…2人、好き…4人、どちらとも言えない…10人、嫌い…1人、大嫌い…1人であった。社会科嫌いが2人いたことに少なからぬショックを受けたが、同時に行った質問に対する答えには更に目を引かれた。その質問は「夏休み中などに実際に裁判や新聞社などを見学する機会があったら参加するか。」というものであった。

この質問に「はい」と答えたのは半数の9人いたのであるが、その内訳は、社会科大好き2人と好きの4人はすべて、そしてどちらとも言えない10人のうちの3人であった。逆に、社会科大嫌いと言いの2人、そしてどちらとも言えない7人が「参加しない」と答えた。調査人数があまりに少なすぎるので、これを一般化するには問題があるが、裁判や新聞社の見学といった現在の自分の生活から見れば、明らかに外の社会に目（興味・関心）を向けられる生徒、つまり『広い視野』を持つ生徒ほど学校の教科としての社会科も好きなのではないかと考えることはできるであろう。逆に考えると、教科としての社会科が嫌いだから、外の社会に目を向けようとしなのかもしれない。

この結果を社会科の立場からあらためて考えると、生徒に『広い視野』を持たせることによって社会科を好きにならせることができるかもしれない、または社会科を好きにならせることによって生徒に『広い視野』を持たせることができるかも知れない…という結論に達するのである。

そして、生徒に『広い視野』を持たせるための方法の一つとして（ある意味では、生徒を社会科好きにならせるため）選択社会科における新聞の活用を考えた。なお、選択社会科における新聞活用の基本的な考えとしては次の4点があげられる。

- ①毎時間最低新聞1紙（必要に応じて複数紙）を全員に配布し、それをもとにした授業を展開する。
- ②本年度の3年生は、1・2年の時に新聞を使っの授業の経験が乏しく、また選択社会科の授業が週に1時間しかないので、新聞活用においては浅く広く考える。
- ③3年生とはいっても、新聞活用に最も必要となる公民的分野…つまり政治や経済についての中学としての学習は、本校では1学

期半ばから行うので、選択社会科で扱う内容についての事前の知識を求めることは実際には無理がある。上記②ともダブルが、内容的に難しいものにならないようにする。

④1年間を通しての柱は『株式学習ゲーム』とする。

証券広報センターで行っている『株式学習ゲーム』の概要は次の通りである。

※架空の1千万円の元金で代表的な東証300銘柄を売買するもので、売買の情報をマークシートに記入して郵送すると、証券広報センターではコンピューターで実際の株価の動きをそのまま使って処理し、1週間ほどでその運用結果を知らせてくる。これを前期・後期それぞれ3ヶ月間にわたって続け、ゲームとしての結果は元金の1千万円をどのくらい増やせるか…ということになる。

新聞に慣れるということでは、新聞の中の国名探し、教師側でピックアップした記事が何面に載っているかを探す活動、記事を探して重要な事項や人名を穴埋めする活動等、小学校で行える活動も取り入れたが、ここでは『株式学習ゲーム』に絞って話を進めたい。

『株式学習ゲーム』を始めるにあたっては、生徒が株式・株式会社等についてほとんど知らないので、公民の授業を先取りして基礎的な知識を教える時間をとるとともに、証券広報センターから取り寄せた株式売買を説明したビデオによっても補足した。

次に実際の売買になるが、その際の資料になるのが新聞の株式欄である。プロがやっても難しい株の購入、ましてほとんど知識を持たない生徒は、最初の株の購入にあたっては、なんとなく知っているから…などが多くなることは仕方がない。売買を開始して1回の買い替えを経験した5月末の段階での生徒の感想としては「教科書に沿って進むだけの授業と

違って、自分が参加しているという実感が持てる」といったものや、「自分が買った株が値上がりしているかどうか心配で、株式欄を見るようになった」など、こちらのねらいにそった反応が出てきていた。更に株式購入に慣れてきた10月末の授業の中では、証券広報センターから返送された結果表を見て「おっ、上がったぜ」「まじで?」「また、おれのは下がっちゃった」という声が上がっていた。この時に、買った不動産会社の株が1株300円以上も値上がりし、165万円増と18人のうちのトップになった生徒は「こんなに上がって驚いた。本当にもうかるわけではないけれど、トップはうれしい」「もうちょっと値上がりしそうだから、まだ売らない」と言っていた。また、100万円以上の赤字になっている女子は「ぜったい赤字から抜け出してやる」と言いながら前日比で高くなった銘柄を見つけて「先生、この自動車メーカーはどうか?」などと質問してきた。授業の中では、購入する株の選定について「全般に大手銀行の決算は悪いようだ」「首相の発言も株価に影響する」などといった解説を入れたり、新聞を見る場合にも株式欄の数字だけでなく、その数字を解説した部分にも注目するように適宜指導してきた。このような中で、徐々に社会の動きや新聞の情報をもとにして購入する株を選ぶ例も出始めた。この冬は風が流行りそうだということで、薬品会社一社に絞って買い注文を出した生徒は「テレビ欄とマンガ欄だけでなく、朝、家で株式欄を見るようになった。塾に行くよりも面白いよ」と笑って言っていた。また、以前はテレビ欄以外は全く新聞を読まなかったという生徒は「株価の変化が気になって毎日のように新聞を見るようになった。政治や海外の出来事が株価に影響すると知ってからは、世界の出来事を知ろうといろいろな面に目を通すようになった」とし、約半年間の取り組みの中

で、生徒の目が社会の動きに向かい始めている様子をうかがわせる声が出るようになった。

なお、この実践については、5月27日に長野日報、6月21日に中日新聞、11月2日に信濃毎日新聞、12月31日に長野日報、1月13日に長野日報、またNBS放送の番組『やまびこ広場』での紹介と、何回も取り上げていただいた。特に新聞の場合には、直接関係する生徒は勿論であるが、同じ学校に通う生徒の写真や記事が載っていると、直接関係ない生徒も新聞に自然に目が向く姿が多く見られた。すでに、いずれの新聞でも小中学生の活動を積極的に取り上げていただいているのでとてもありがたいが、これも児童生徒の目を新聞に向ける一つの道であることは確かであり、また同年代の児童・生徒の活動を知るためにとても大切なニュースソースであるので、更に充実したものに（勿論学校側からの働きかけも必要であるが…）していただけるとありがたい。

4. 実践の感想と今後の課題

1月13日の長野日報のコラム『八面観』では、本校の1年間の取り組みについて次のように感想を述べてくださった。（一部省略）

「有名企業だし、知っている会社なので」。最初のうちはこの程度の理由で購入を始めた生徒たち。けれど、その日の政治情勢、為替相場などと密接に関係していることを学んでは目の色が変わってきた。総理大臣の一言で株価が乱高下する経験も積んだ。それからは政治経済面にも目を通すようになった。毎日のように押し寄せる情報を判断して売買しなければ、損失を出してしまう。教科書では味わえない面白さとスリリングな展開の連続。生徒たちは見知らぬ間に社会の動きに目を向け始めていた。新聞は社会に通じる窓だと改めて思う。NIEの歴史は浅いけれど、

新聞を教材にしたこんな授業があってもいい。自ら考え、課題を解決する力も身につけられるはず。新しい学習要領で創設される「総合的な学習の時間」の理念も先取りしている。

1年間といっても、選択社会科は実質的には30回できるかどうか。また先述のように政治面や経済面についての基礎的な知識の乏しい中で株の売買はなかなか厳しいものがあった。しかし、生徒は少なくとも意欲的に授業に取り組み、新聞には生徒が必要とする様々な情報が載っていることを知り、株価の上がり下がりという現象に、社会の動きが複雑に関わりあっていることに気付くことができた。これをもって『広い視野』が育ったとは言いがたいが、その一步を踏み出すことはできたのではないだろうか。そして、教科学習としての社会科はともかく、選択社会科における社会科には興味を持ったはずである。

本年度で2年間にわたったNIE実践校としての取り組みは終了するが、多くの新聞に接する機会を与えていただいたこと、多くの情報をいただいたこと、全国大会への参加によって全国各地の取り組みを肌で感じることもできたこと、これらはほんの一例であるが生徒は勿論、担当した職員は大きな財産をいただくことができた。関係各位に感謝を述べたい。

最後に、NIEの活動が更に多くの教師や学校関係者に理解されることにより、児童生徒の『生きる力』につながる学習ができることを強く願うとともに、実践校であった時より更に一步進めた形でNIEに取り組めるように考えていきたい。

株もうかった？



「株もうかった？」という問いかけは、NIE実践の醍醐味の一つ。参加者は、新聞記事を読み、その内容に基づいて株取引のシミュレーションを行う。この過程で、参加者は経済の動きや企業の業績をリアルに体感し、投資のリスクとリターンを理解する。

新聞にらみ ゲーム感覚

「株もうかった？」という問いかけは、NIE実践の醍醐味の一つ。参加者は、新聞記事を読み、その内容に基づいて株取引のシミュレーションを行う。この過程で、参加者は経済の動きや企業の業績をリアルに体感し、投資のリスクとリターンを理解する。

「株もうかった？」という問いかけは、NIE実践の醍醐味の一つ。参加者は、新聞記事を読み、その内容に基づいて株取引のシミュレーションを行う。この過程で、参加者は経済の動きや企業の業績をリアルに体感し、投資のリスクとリターンを理解する。

個人から社会に目を



「個人から社会に目を」というテーマは、NIE実践の重要なポイント。参加者は、個人レベルの経済活動から社会全体の動きまで、幅広く学び、理解を深める。この過程で、参加者は社会の仕組みや経済の循環をリアルに体感し、社会貢献の意識を高める。

「個人から社会に目を」というテーマは、NIE実践の重要なポイント。参加者は、個人レベルの経済活動から社会全体の動きまで、幅広く学び、理解を深める。この過程で、参加者は社会の仕組みや経済の循環をリアルに体感し、社会貢献の意識を高める。

記事集めて自分の意見形成

「記事集めて自分の意見形成」というテーマは、NIE実践の重要なポイント。参加者は、新聞記事を読み、その内容に基づいて自分の意見を形成し、発表を行う。この過程で、参加者は批判的思考力を養い、社会問題に対する理解を深める。

経済面や株式欄じっくり読んで、資産運用



「経済面や株式欄じっくり読んで、資産運用」というテーマは、NIE実践の重要なポイント。参加者は、新聞の経済面や株式欄をじっくり読み、その内容に基づいて資産運用のシミュレーションを行う。この過程で、参加者は経済の動きや企業の業績をリアルに体感し、投資のリスクとリターンを理解する。

株式学習ゲーム

「株式学習ゲーム」というテーマは、NIE実践の重要なポイント。参加者は、株式の取引ルールや市場の動きをゲーム形式で学び、理解を深める。この過程で、参加者は株式投資のリスクとリターンを理解し、資産運用の意識を高める。

「また下がっちゃった!」まだ売らない

「また下がっちゃった!」まだ売らない」というテーマは、NIE実践の重要なポイント。参加者は、株式の価格変動をリアルに体感し、投資のリスクとリターンを理解する。この過程で、参加者は経済の動きや企業の業績をリアルに体感し、投資のリスクとリターンを理解する。

社会の動き自分の目で

西谷西野中 NIE実践に効果



「社会の動き自分の目で」というテーマは、NIE実践の重要なポイント。参加者は、社会の動きを自分の目で確認し、理解を深める。この過程で、参加者は社会の仕組みや経済の循環をリアルに体感し、社会貢献の意識を高める。